

悔しい初戦敗退

様々な制限がある中で、また人数もギリギリの状態でもよく戦いました。前日のミーティングでは絶対に勝つてやるという気持ちで表情に現れていました。要所要所をきっちり守り大量失点という事はなくなってきましたね。バツティングに時間をかけ「打って勝つ」とをテーマにやってきました。我慢の守備が続く中、ピッチャーも最後まで良く投げました。初めから継投のつもりは無く、ピッチャーを信じてマウンドへ送りました。最終的にあのような結果になりましたがそれ自体に悔いはありません。この経験を次に生かしてください。攻撃ではファーストストライクを振っていき、スイングしたことを褒め、良い雰囲気を作る、チャンスでの一本、ピッチャーと戦う気持ちを強くもつ等、練習の成果を発揮することができました。守備では一三塁での送球、フライ捕球、カットプレーとポイントとしていたことがしっかりとできました。しかし、やはり公式戦初戦を勝つことの難しさを私も感じました。試合の雰囲気にも飲まれ「勢い」をあまり感じませんでした。攻撃で連打をした最終回も、守備では

どこか心ここにあらすという感じでしたね。緊張とはまた違うどこか嫌な雰囲気が出ていました。毎回のミーティングをするたびに私は感じていました。反応や返事はとても良かったです。私とみんなは良かったのですが選手同士の反応は悪かったように感じます。思い出せ！一心同体、全員野球！夏の高校野球を見ていてもやっぱり最後は気持ち。会場を巻き込むような流れ、雰囲気を見分けて作れ！みんなにはそれができる。できれば都会会に行ける。この悔しさを胸に絶対に都大会に行こう。

あっぱれ

第12号

編集・発行 顧問 中村 悠太

一心同体！全員野球！

今後の戦術について^秘

[Redacted content]